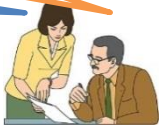


文字ばかりで読みにくいなあ…

それは言わないでください(汗)



事例紹介特集

今号は『事例紹介特集号』として県中方部センターで関わりを持たせていただいているケースに関してご紹介いたします（もちろんプライバシーに配慮して、本筋に影響しない範囲での一部改変をしております）。2つの事例紹介を通して**県中方部センターの活動の一端をご理解いただけたら**と思います。

<Aさんの困りごと、訪問契機>



まずは**精神保健福祉士と保健師とのチームで家族関係の調整・生活の立て直しを図った事例**だね

家族より自治体に「家族への暴言がひどく

困っている。通院や服薬も中断している。」と電話相談があり、自治体よりケアセンターに支援依頼がある。初回訪問時に本人は、「妻とすぐにけんかになる。妻は自分の辛さを分かっていない。家に居づらいからパチンコに行くことが多い」と話す。

<Aさんの背景、見立て、支援方針>

50歳代男性。夫婦で同居。精神疾患のため数年の入院歴がある。しかし、震災により治療継続が難しくなり中断。長引く避難生活で、本人、妻ともにストレスが大きくなり、関係が悪化。**ケアセンターとしては、①傾聴によるストレス緩和、②本人が安心して過ごせる居場所の情報提供、③医療機関の情報提供と受診勧奨などを行うこととした。**

<ケアセンターの関わり>

初回は自治体保健師と同行訪問、2回目以降はケアセンターの保健師と精神保健福祉士が訪問した。夫婦同席で話をすると、言い争いになってしまったり、本当の思いを話せなかったりする様子なので、本人の話は精神保健福祉士が、妻の話は保健師が中心となって聴いた。また、本人が日中安心して過ごせる場所として、地域活動支援センター等の事業所の情報提供を行った。

<関わりの結果>

傾聴により、夫婦がお互いに思いやっていることに気づくことができた。また、本人は受診を再開し、「居場所」としての事業所の利用を検討している。

<Bさんの困りごとと訪問契機>

次は**看護師と臨床心理士とのチームで身体的不安・精神的不安の軽減を図った事例**かな



一人暮らしでのため不安や不満を吐き出す

場がないことと、持病があるが慣れない避難先ではどこの病院へ行けば良いのかわからない事に困っている。自治体職員からの依頼で訪問実施。

<Bさんの背景、見立て、支援方針>

60代の男性。借り上げ住宅で独居。近隣に知り合いはいない。避難後は飲酒量が増えている。ケアセンターは、Bさんが避難後に地域で孤立した結果、地域情報が得られにくい状態にあり、さらに避難生活への不満を募らせて飲酒量が増加していると見立て、**①適切な治療を行うための受診勧奨と身体症状改善への助言、②避難生活への不満の傾聴を行う**という支援方針を立てた。

<ケアセンターの関わり>

初回は自治体保健師と当センターの臨床心理士が訪問、それ以降は当センターチーム（臨床心理士・看護師）で訪問実施。避難生活への不満の傾聴を臨床心理士が行った。身体面へのフォローを看護師が中心に行った。受診は、避難先の病院リストをBさんと確認し、通院しやすい医療機関を紹介した。飲酒に関しては、飲酒量を減らすきっかけ作りとして飲酒日記で飲酒量を記録してもらうことにした。

<関わりの結果>

月1回の継続訪問の中で、避難生活の不満や怒りを伺うことで、より冷静に現状を受け止められるようになった。また、持病については定期通院につながったことで、持病に対する理解と生活習慣の見直しのきっかけとなった。さらに、飲酒日記をつけることで、お酒に費やす金額や飲酒量の多さに気づくことができた。

方部連絡調整会議のご報告

9月30日に行われた、平成25年度県中方部連絡調整会議が無事終了いたしました。ご出席頂いた皆さまには、この場をお借りしまして改めて御礼申し上げます。

さて3回目を迎えたこの度の会議では20名の出席者をお迎えして、ケアセンターの活動や各機関同士の連携のあり方などが話し合われました。その中でも今回は、浅川町さんと郡山医療生活協同組合さんからの活動報告を頂いた点が大きな特徴です。アンケートの中にも「活動報告が参考になった」との感想をたくさん頂きました。以下、その要約を掲載いたします。

★浅川町さま★

男性を対象にしたサロン活動として、「男爵ヘルスアップ教室」を開催している。きっかけは、様々なりスクが高まる定年後の男性を対象とした関与が必要との認識からである。十数人での活動であり、運動トレーニングやクッキングなどを行っている。参加者の「やってみたいこと」を大切にしながら、長期的に活動を継続していきたい。

★郡山医療生活協同組合さま★

法人として、東日本大震災の被災者に対する支援を行っている。対象は、支援があまり行き届いていないと考えられる、借り上げ住宅の住民に的を絞っている。当初は、相談を受け付けるという体制であったが、待ちの姿勢では避難者の実態把握が困難ということで、自分たちの動ける範囲での訪問活動を展開した。訪問ケースの中には、ケアセンターでの支援につながったものもあった。



11月のサロン活動のご案内

- 8日 葛尾村 | 親子ふれあい教室
9:15~11:30 (貝山支えあいセンター)
- 8日 三春町 | 親子ふれあい教室
9:30~11:30 (三春町保健センター)
- 8日 田村市 | 親子ふれあい教室
9:30~11:30 (田村市子育て支援センター)
- 11日 富岡町 | 健康サロン
9:30~11:30 (富田町若宮前仮設集会場)
- 13日 須賀川市 | 親子ふれあい教室
9:30~11:30 (須賀川保健センター)
- 18日 平田村 | 親子ふれあい教室
9:30~11:30 (平田村保健センター)
- 22日 富岡町 | ひとやすみの会
9:40~11:30 (大槻町北公民会館)

12月のサロン活動のご案内

- 6日 葛尾村 | 親子ふれあい教室
9:15~11:30 (貝山支えあいセンター)
- 11日 須賀川市 | 親子ふれあい教室
9:30~11:30 (須賀川保健センター)
- 13日 三春町 | 親子ふれあい教室
9:30~11:30 (三春町保健センター)
- 17日 双葉町 | ひとやすみの会
10:00~11:30 (日和田仮設住宅集会場)
- 18日 双葉町 | ひとやすみの会
10:00~11:30 (喜久田仮設住宅集会場)
- 19日 双葉町 | ひとやすみの会
10:00~11:30 (富田仮設住宅集会場)
- 24日 富岡町 | ひとやすみの会
9:40~11:30 (大槻町北公民会館)

いずれも申し込み不要で無料でご参加いただけます。
詳細は各市町村のご担当者にお問い合わせください。

もうすぐ年の瀬ですね。今号が年内最後の発行になります。だいぶ早いですが、みなさんよいお年を！

●発行元

福島県精神保健福祉協会

ふくしま心のケアセンター
県中方部センター

〒963-8024

福島県郡山市朝日一丁目14-3

アライビル201号

Tel 024-983-0274

Fax 024-983-0276

<http://kokoro-fukushima.org/>



【お問い合わせ先】

被災された方々やその
支援をされている方々
からのご相談

被災者相談ダイヤル“ふくここライン”

TEL 024-531-6522

平日 9:00~12:00、13:00~17:00

その他の
お問い合わせ

ふくしま心のケアセンター 基幹センター
TEL 024-535-8639 FAX 024-534-9917

〒960-8012 福島市御山町8-30

(県保健衛生合同庁舎5階)